

通し番号	3710
------	------

分類番号	12-44-12-09
------	-------------

低木類のマット化可能植物の選定	
[要約]アスターニチダ他合計28種37品種・系統について薄層容器で1年程度栽培したところ、落下試験による根域の崩壊率はシモツケ、コトネアスター、タイム等で5%以下と小さく、容器から根域を崩さずに持ち上げることの出来なかったヤブコウジ等4樹種6品種・系統を除き、 <u>根域のマット化</u> が可能であることが判明した。	
(実施機関・部名) 農業総合研究所・生物資源部	連絡先 0463-58-0333

#### [背景・ねらい]

早期緑化を目的とし、薄層化した根域の連続性及び地上部の被覆速度等を基準に、マット化可能な低木類グラウンドカバー植物を検索する。

#### [成果の内容・特徴]

- 1 地上部の成育は、ヒメツルソバ、ユーパトリウム、タイム2品種、ジブソフィラ、ダイカンドラの5種は特に被覆速度が速かった。アスター、コトネアスター、ヘデラ・ヘリックス、ヤボン、ランタンキュラスの5種は容器外に伸び出した茎葉を数回剪定したものの、容器内の被覆率を高めるのに困難を要した。ツルマサキ・シルバー、サンスポット及びイヌツゲ、ジュニペラス・ブルーパシフィックの一部で13年5月中旬までに被覆率が80%に至らないものが見られた。
- 2 容器から根域を崩さずに持ち上げるのでできなかったヤブコウジ2品種、ツルマサキ・シルバー、イワナンテン2種、イヌツゲ・ヒレリを除き、マット化した根域が2区画以上に分離するものは認められず、用土の崩壊率は種・系統により0.3から約35%の範囲であった。
- 3 崩壊率はタイム、シモツケ・マジックカーペット、ベニシタン、コトネアスター・オータムファイアー、アベリア、ローズマリーで5%以下と小さく、3回落下を繰り返してもほとんど用土が崩れなかった。崩壊率が大きかったヤボン・ウィーピング(35.4%)、モッコウバラ(18.0%)、ヘデラ・ロンベア(16.2%)、マルバツルマサキ(15.1%)の4種でも3回の落下試験により根域の連続性が失われることはなかった。

#### [成果の活用面・留意点]

- 1 本試験でマット化しなかった植物種も、栽培期間や植栽密度等栽培方法の変更により、マット化が可能なものと思われた。
- 2 実際の施工・利用においては植物種毎の特性に留意する必要がある

[ 具体的データ ]

表 低木類の13年落下試験主要な結果

樹種	種・品種	増殖	密度	栽培期間 月	投下前 kg	崩壊率 %	評価
ペンタゴン	spp	セル	3 × 3	10.0	1.89	4.53	A
コナスタ	オータムファイア	セル	3 × 3	10.0	1.47	3.26	A
ヘデラ	ロンバ	C	3 × 3	10.5	1.87	16.20	C
	ハリクス	C	5 × 5	10.5	2.00	10.78	C
シモツク	マジックカーペット	セル	3 × 3	10.5	1.97	6.55	A
リュウノヒゲ		株分け	3 × 3	11.5	2.35	7.51	B
タイム	キャラウェイ	C	3 × 3	12.5	2.13	0.94	A
	シルバ	C	3 × 3	12.5	1.65	0.91	A
ツルマサキ	マルバ	セル	3 × 3	10.5	1.76	15.07	C
	シルバ	C	3 × 3	10.5	1.70		D
	サンスポット	C	3 × 3	10.5	1.65	15.81	C
ヤブソウ	ウイピング	セル	3 × 3	14.0	1.85	35.42	C
ゴシキナンテン		3号p	3 × 3	14.0	2.11	13.13	B
イワナンテン	アキシリス	3号p	3 × 3	14.0			D
	トリカゲ	3号p	3 × 3	14.0	1.80		D
オイタビ		C	3 × 3	12.5	2.07	9.44	B
ジュニペラス	ブルーパシフィック	C	3 × 3	14.0	2.05	5.99	C
カスバ	アコマ	箱挿し	3 × 3	10.5	1.72	10.63	B
	ウイピング	箱挿し	3 × 3	10.5	1.69	11.46	B
アヘリア	フランスメイソン	箱挿し	3 × 3	8.0	1.69	4.85	A
アスター	ニチダ	箱挿し	3 × 3	8.0	1.93	7.53	B
ローズマリー	枝垂れ	セル	3 × 3	7.5	1.76	4.31	B
イヌツゲ	ヒレリ	セル	3 × 3	8.0			D
モッコウバラ	黄花	セル	3 × 3	7.5	1.95	18.02	C
ヤブコウジ	細葉	3号p	3 × 3	19.0	2.24	14.63	C
	枇杷錦	3号p	3 × 3	19.0	1.78		D
	三保の松	3号p	3 × 3	19.0	1.79		D

増殖欄、C：トレー直挿し、セル：135穴セル成型苗定植、p：ポット苗定植

ツルマサキシルバ、イワナンテン2種、イヌツゲヒレリ、ヤブコウジ2品種については、根域の連続性が認められず落下試験を行うことが出来なかった。

[ 資料名 ] 平成12年度農業総合研究所試験研究成績書（花き・観賞樹）

[ 研究課題名 ] 早期緑化のためのマット植物の効率的生産技術の開発

[ 研究期間 ] 平成12年度（平成11～14）

[ 研究者担当名 ] 堀越禎一